



# いすぐみだより

2025年度 6月号

尚徳福祉社会生麦保育園



晴れたり、雨が降ったり天気の変り変わりが多いこの時期。登園した子どもたちは「雨だね」「かさもってきたよ」と晴れの時とは違う装いを嬉しく感じているようです。

これから室内で過ごすことが多く予想されるので、子どもたちがじっくり集中して遊んだり、室内で体をたくさん動かしたりしてメリハリをつけて過ごすことができるようにしたいと思います。



## 葉っぱの下には・・・？

最近のりす組の子どもたちのブームは「虫探し」です。キリンビール公園でダンゴムシやバッタ、アゲハ蝶を近くで見ることが出来た経験から、虫に興味を示している様子が見られています。コンクリートの地面ばかりを探すので「土とか葉っぱの下にいるのよ」と伝えると、公園のいたるところの葉っぱをひっくり返し、じーっと集中して探しています。

虫探しの中でも「ダンゴムシ」に触れると、丸くなるのがとても不思議だったようで「なんで？」「お顔見えないね」と心配そうな様子もありました。保育者が「静かに待っていてごらん」と声をかけると「なんで？」と言わんばかりの表情(笑)保育者の言葉通り、静かに見ているとすぐに動き出したダンゴムシを見て「うごいた！」と、キラキラの表情を見せてくれました。はじめは触ることができずに、保育者の手のひらでじっと観察していましたが、慣れてきて手のひらに乗せられるようになる子もいます。アリは動くのが速くて、なかなかつかめずに指でぎゅっと潰してしまうことも…そのような時は「アリさんもううごけなくなったよ」「ぎゅってしたら痛いよ」「優しくね」と、子どもたちに命があることをきちんと伝えるようにしています。これからも虫探しを通して、生き物の生態や命の大切さを知らせていきたいと思っています。

## ごちそうさまの後は。。

りす組では、給食の後に手洗いと着替えをしています。服が汚れていなくても、目に見えない汚れがあること、着替えたら「すっきり気持ちいい」ということを伝えています。はじめは「手洗ってね」「カゴ持ってきて欲しいな」「おしっこ出ているかな」と、全て保育者が確認していたのですが、最近は保育者に何も言われなくても自分たちで淡々と身支度をしている姿に驚いています。

Tシャツも頭を自分で被れるようになり、紙パンツも自分のマークから出して座椅子に座って履くなど、日々成長しているのを感じています。子どもたちの自信に繋がるよう、援助していきますのでお家でも「自分でやってみる」機会を大切にしてください！

## じぶんでじぶんで！！

何事も「自分で」やりたいという様子が園生活でも多く感じられます。遊びの中、身支度、保育者のお手伝いなどなど…その中でお友だちに対して「やってあげたい」「手伝ってあげたい」という気持ちを感じられるようになってきました。危険な時は「先生がやるね」と止めることもありますが、そうでない時は見守るようにしています。日々の生活の中で子どもがやりたがって泣いたり、怒ったりすることもあると思います。ですが全てを子どもに決めさせるのではなく、保護者の方や保育士など周りの大人との関わりの中で学んでいくと思いますので、一年間一緒に見守っていただけたらと思います。

